

＜ もくじ ＞	
1. 2023年度総会・第22回大会開催のお知らせ	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 研究会からの概要報告	3
4. 事務局からのお知らせとお願い	4

1. 2023年度総会・大会開催のお知らせ

(1) 2023年度定例総会

2023年度総会は、6月25日に開催いたしますが、5月8日にコロナ対応が軽減されたとはいえすぐに以前のように会場での開催に切り替えることは現時点で難しいと判断し、少なくとも今年度までは昨年と同様、会場では3名の小規模開催とし、それ以外の会員については事前の書面決議をお願いすることになりました。添付ファイルのお知らせのように、一般会員の皆様には総会議案の議決につきまして、昨年度、電磁式（電子メール）を選択された会員および郵送を選択された会員には、それぞれ選択された方法に従って議決権行使をお願いいたします。メールをお使いの会員はご指示がない限り電磁式（電子メール）での議決権行使をお願いいたします。

2023年度総会では、通常第1号議案（2022年度活動報告）、第2号議案（2022年度収支決算報告）、第3号議案（2023年度活動計画案）、第4号議案（2023年度予算案）のみとなります。議案と回答フォームまたはハガキをお送りしますのでよろしくお願い申し上げます。

(2) 2023年度第22回大会

昨年度から当学会では、2021年度の長期計画検討委員会の議論を踏まえて、従来の超高齢化、人口減少に加えて、新自由主義と働き方改革（非正規労働の拡大）、ICT・AI技術の発達、そしてコロナ禍など、時代の大きな変化を背景に、格差や差別の問題についての現状を再確認し、今後の当学会の課題を見直すことを3年間の大会の共通テーマとして掲げることになりました。そして、昨年度は「現代日本における年齢格差～若者世代と高齢者世代の協調・連帯を求めて～」としました。今年度は、ジェンダーの平等を扱い、「誰ひとり取り残さない社会」の実現をめざすための課題を検討したいという構想です。

ジェンダーギャップ指数やジェンダー平等指数が明らかにしているように、日本における女性の地位は世界でもっとも低いところに位置づけられています。健康や教育の面ではトップレベルにあるにもかかわらず、労働や政治の場において指導的な地位を占める女性がきわめて少ないことがその主たる要因と考えられています。さらに、行政や市民によってジェンダー平等を実現するための指針が示されていますが、日常生活や意識の面では、まだまだ男性優位の家父長制的思考が根深く残っています。このシンポジウムでは、ジェンダー平等の実現を阻む要因を明らかにするだけでなく、それを取り除くには今、何が必要なのか、とりわけ老若男女共同参画社会の実現をめざすシニア社会学会として何ができるのかを考えたい。

- 1) 日 時：2023年6月25日（日） 14：00～17：00
- 2) 開催方法：会場開催（オンライン併用）
- 3) 開催場所：日本労働者協同組合連合会会議室 池袋IPSビル8階
- 4) 大会テーマ：「ジェンダー平等の日本を創ろう！」

I. 基調講演：★講師：萩原なつ子（国立女性教育会館理事長）

「もはや昭和ではない」時代の誰一人取り残さない社会

II. シンポジウム

・司会：袖井孝子（当学会会長）

・パネリスト：

★小平陽一（当学会運営委員）：男性の視点でとらえた暮らしの中のジェンダー

★松島悦子（当学会理事）：地域に残存する男尊女卑

★木村民子（元文京区議会議員）：議会の鉄壁を崩そう！

コメント

★萩原なつ子（国立女性教育会館理事長）

5) 参加費：1,000円（Peatix、振り込み）

参加費の払い込みは、昨年の連続講座と同様、原則として事前にPeatixから払い込んでいただくようお願いいたします。それが難しい場合には、銀行振り込みも受け付けます。当日会場では金銭のやり取りはしないように考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

詳しくは、添付の大会プログラムをご参照ください。

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第151回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年5月17日（水） 18:00～20:00

2) 報告者：五島朋幸（歯科医師・食支援研究者）

3) テーマ：「死ぬまで噛んで食べる～最期まで口から食べられる街づくり～」

4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

[阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp)

[小島みさお kojima.misao01@gmail.com](mailto:kojima.misao01@gmail.com)

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(2) 第87回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年5月25日（木） 15:00～18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：発表と意見交換くそのー4>「多様なシニアの生き方が成熟社会を面白くする」

4) 発表者：安田 和紘

5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。

(3) 第44回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年6月6日（火） 17:30～19:30

2) 場 所：Zoom開催

3) テーマ：読書会 『私とは何か』「個人」から「分人」へ 平野啓一郎 講談社現代新書
2012年

「分人」とは何か？ 人間の基本単位を「個人」から「分人（ぶんじん）」に考え直すことで、世界の見え方は一変する。一人の人間は、複数の「分人」のネットワークであり、そこには「本当の自分」という中心はない。対人関係ごとに見せる複数の顔＝「分人」が全て「本当の自分」であるという趣旨でこの本は書かれている。さて、あなたの読後感、お考えは？

※1 .5月9日に開催した、第43回の概要報告は、次号にてご報告いたします。

※2. ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願い致します。

(4) 第34回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2023年6月17日（土） 18:30～20:30

2) 場 所：品川区東大井 5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

4) テーマ：認知症とともに生きる

びしょうざ

劇団 「B笑座」第21回。 「認知症とともに生きる」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。Zoom の参加もできます

*お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

3. 研究会からの概要報告

(1) 第86回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

1) 日 時：2023年4月20日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：意見交換くそのー3>—「提言書素案の提出と意見交換」

発表と意見交換は、安田コーディネーターの司会で進められた。

先ず、安田 和紘さんは、タイトル「シニアからの提言 令和編(素案)」と題するレポートに沿って発表された。「成熟社会」を問題意識としていること。そして提言の方向性として、①シニアライフの充実 ②家族との共存 ③地域・社会に資する生き方 ④生き方の多様性 ⑤次世代へのメッセージの5つを列記された。

薄井 滋さんは、「提案書作成のための基本方針についてのメモ」として、濱口研究会はどう対処すべきか。そして現代社会を歪めている「ホモエコノミクス」の言説を解説された。

佐藤 敬さんは、「ハンドブック作成に関する基本方針メモ」と題して、ただ言うだけの提言では意味がない。「脚下照顧」の意識に基づいた、より良き余命を過ごすための自分自身へのメッセージにしたいと考えたいこと。

大下 勝巳さんは、「基本方針を考えるに当たって」とのタイトルで、各人が自らのシニアライフをどう充実させるかを始点として社会参加活動への道を選ぶことをベースに考えたいこと。

島村 健次郎さんは、「濱口研究会の足跡を時系列で分析」し、改めて課題の抽出を考えたいと述べた。5名の発表後、いろいろな角度から活発な意見交換が行われた。

濱口座長は、シニア社会がシニア社会と言語化されること自体が当該社会に占めるシニアの割合の大きさを問題視していること。シニアという言葉が既に日本語として定着していることは、社会構造プラスシニア主体の関係が定着していること。そしてシニア社会という構造的レベルと、シニアという人的レベルでのあり方の一体的理解が進んでいるとコメントされた。

(島村健次郎 記)

(2) 第32回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

1) 日 時：2023年4月22日(土) 18:30:~20:30

2) 場 所：品川区東大井 5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

4) テーマ：認知症とともに生きる

びしょうざ

劇団 「B笑座」第19回。

「認知症とともに生きる」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しており、Zoom 参加者も増えました。(鈴木眞澄 記)

(3) 第150回「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2023年4月26日(水) 18:00~20:30

2) 報告者：上原桃美(ダイヤ高齢社会研究財団 博士研究員)

3) テーマ：シルバー人材センターでの生きがい就業

4) 参加者：12名

日本には、高齢者に就業機会を提供しているシルバー人材センターがある。シルバー人材センターは日本独自のものであり、会員である高齢者が「自主」「自立」「協働」「共助」の理念をもとに活動している。会員らの就業理由は幅広く、友人交流や健康維持、地域貢献などの経済的な理由以外である場合も多い。そのため、シルバー人材センターでの就業は“生きがい就業”とも呼称されており、先行研究においても高齢者の誇り高き仕事として認識されている。近年、高齢期就業の需要が高まるなか、シルバー人材センターでの生きがい就業も選択肢の一つとして注目されるようになった。しかし、その一方では解決すべき課題も多々存在している。本報告では、シルバー人材センターでの生きがい就業の実態を示したうえで、発表者が携わった調査研究をもとに、諸課題の中から次の2点に関して言及した。

① 会員の高齢化（80歳以上になっても働き続けるために）：80歳を超えるシルバー人材センター会員の割合は、男性12.8%/女性4.1%（2016年時点）となり、この割合は年々増加傾向にある。その理由として、新入会員の年齢が上昇した点、後期高齢者層の会員の退会が抑制された点が挙げられる。会員の退会年齢のピークは70～75歳前後にあり、この年齢段階に対する重点的な退会防止策を講じることで会員の就業寿命を延ばすことができるだろう。たとえば、80歳以上の会員でも無理なく働けるような仕組みとしてグループ就業が可能な職種を増やしたり、会員の健康管理や安全就業への取り組みをより強化するといった対応が考えられる。

② ホワイトカラー職種出身会員への対応：シルバー人材センターでの就業内容は、屋内外での単純作業が占める割合が大きい。そのため、シルバー人材センターは、入会前に事務系職種に従事した経験のあるホワイトカラー職種出身者への対応として、事務系職種を開拓するべきであると指摘されてきた。しかし、調査研究の結果からは、そもそも事務系職種を希望するホワイトカラー職種出身の会員が決して多くはないことが示された。シルバー人材センターにおいては、前職との連続性よりも会員（友人）同士の交流や就業を通じた健康維持といった他の就業ニーズに配慮して就業機会を開拓するべきである。（上原桃美 記）

5. 事務局からのお知らせとお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2023年6月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第286号の発行日は、2023年6月21日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、6月16日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>